



# 平和文庫 創刊!

ヒロシマ、ナガサキ、沖縄……

いま語りつぎ、子どもにつたえる戦争の悲劇と平和への祈り

第1回配本 全5巻 2010年7月

## この子を残して

永井 隆 著

原子病患者として死の床に臥す父・永井隆博士が二人の愛児に書き遺した感動の書。

四六判・並製・カバー装・本文262頁  
ISBN978-4-284-80076-1  
定価 1,050円 (本体1,000円+税)

## 夏の花

原 民喜 著

世紀の閃光はあざやかだった。  
戦慄の廃墟での恐怖の体験を小説化し  
明日の人類におくる文学の花。

四六判・並製・カバー装・本文214頁  
ISBN978-4-284-80078-5  
定価 1,050円 (本体1,000円+税)

## 屍の街

大田洋子 著

天に焼かれる!  
被爆の体験を原爆症の恐怖とたたかいつつ  
密度の高い記録文学に結実。

四六判・並製・カバー装・本文216頁  
ISBN978-4-284-80080-8  
定価 1,050円 (本体1,000円+税)

## 原爆詩集

峠 三吉 著

ちちをかえせ ははをかえせ としよりをかえせ  
こどもをかえせ わたしをかえせ

四六判・並製・カバー装・本文170頁  
ISBN978-4-284-80079-2  
定価 1,050円 (本体1,000円+税)

## 長崎の鐘

永井 隆 著

自らも重症を負いながら献身的救護活動をした  
医師の立場から描いた生々しい被爆の実体験。

四六判・並製・カバー装・本文192頁  
ISBN978-4-284-80077-8  
定価 1,050円 (本体1,000円+税)



大林宣彦 映画作家

黒古一夫 文芸評論家・筑波大学大学院教授

黒柳徹子 女優・ユニセフ親善大使

早乙女勝元 作家

田上富久 長崎市長

林 京子 著述業

松谷みよ子 児童文学作家

柳田邦男 ノンフィクション作家

山田太一 脚本家

吉永小百合 俳優

(五十音順)

9 八月六日

あの閃光が忘れえようか  
瞬時に街頭の三万は消え  
押しつぶされた暗闇の底で  
五万の悲鳴は絶え  
渦巻くきいろい煙がうすれると  
ビルディングは裂け、橋は崩れ  
満員電車はそのまま焦げ

八月六日

5 この子を残して

うとうとしていたら、いつの間に遊びから帰ってきたのか、カヤノが冷たいほおを私のほおにくっつけ、しばらくしてから、  
「ああ、……お父さんのおい……」  
と言った。  
この子を残して——この世をやがて私は去らねばならぬのか？  
母のおいを忘れたゆえ、せめて父のおいなりとも、と恋しがり、私の眠りを見定め  
てこっそり近寄るおさな心のいじらしさ。戦の火に母を奪われ、父の命はようやく取り止  
めたものの、それさえ間もなく失われればならぬ運命をこの子は知っているのであろうか？  
枯木すら倒るるまでは、その幹のうづろに小鳥をやどらせ、雨風をしのがせるという。

この子を残して

内容見本  
68%縮小

永井 隆「この子を残して」

峠 三吉『原爆詩集』

## 永井 隆 (ながい たかし)

明治41年(1908)2月3日～昭和26年(1951)5月1日。  
医師。鳥根県松江市生まれ。母校 長崎医科大学の研究室にて被爆。重症を負うが献身的な救護活動を行う。バスターナーとなり、映画化もされた『長崎の鐘』は救護現場にあったからこそその凄絶な描写である。21年教授。同年7月病床に臥す。二人の愛児とわずか2畳の如己堂(によこどう)で生活。そこで遺書のように書かれたのが『この子を残して』。

## 原 民喜 (はら たみき)

明治38年(1905)11月15日～昭和26年(1951)3月13日。  
詩人、小説家。広島県出身。慶応義塾大学卒。昭和11年以降『三田文学』に詩や短編小説を発表していた。広島での被爆体験を綴った小説『夏の花』で注目される。この小説は最初『三田文学』昭和22年6月号に掲載され、のち単行本で能楽書林から出版された。国電(現在 JR)中央線で鉄道自殺。

## 大田洋子 (おおた ようこ)

明治36年(1903)11月20日～昭和38年(1963)12月10日。  
小説家。広島県出身。広島市進徳女学校卒。主に『女人芸術』を舞台に活躍。広島での被爆後に作風は一変し、原爆の惨状を描いた『屍の街』、『人間檻樓』(第4回女流文学者賞)、『半人間』(昭和29年度平和文化賞)などを発表。

## 峠 三吉 (とうげ さんきち)

大正6年(1917)2月19日～昭和28年(1953)3月10日。  
詩人。大阪府出身。広島県立商業学校卒。広島で被爆。原爆症に苦しみながら詩作活動をし、文化運動を指導する。『原爆詩集』は最初昭和26年8月の広島平和大会にささげようとガリ版刷り本で出版された。これは同年夏のベルリン平和大会へも平和を求める日本人の代表的文学作品のひとつとして送られた。

■発行 ■ 日本ブックエース

〒112-0012 東京都文京区大塚3-10-6 TEL 03-5940-5474 FAX 03-5940-5476

■発売 ■ 日本図書センター

〒112-0012 東京都文京区大塚3-8-2 TEL 03-3947-9387 FAX 03-3947-1774

注文書		注文数	
FAX <b>03-3947-1774</b> にご注文ください。 発行 日本ブックエース 発売 日本図書センター			
書店印	「平和文庫」第1回配本 全5巻 ISBN978-4-284-80075-4 揃定価 5,250円(揃本体 5,000円+税)	セット	
	この子を残して ISBN978-4-284-80076-1 定価 1,050円(本体 1,000円+税)	部	
	夏の花 ISBN978-4-284-80078-5 定価 1,050円(本体 1,000円+税)	部	
	屍の街 ISBN978-4-284-80080-8 定価 1,050円(本体 1,000円+税)	部	
	原爆詩集 ISBN978-4-284-80079-2 定価 1,050円(本体 1,000円+税)	部	
	長崎の鐘 ISBN978-4-284-80077-8 定価 1,050円(本体 1,000円+税)	部	
●お名前	●ご注文	●お電話	